

堺すずめ踊り

仲

団

巢

連

円陣  
ENGINE

第54号・特別号

な い す

2022年10月 25日発行

NICE-REN 10 YEARS AFTER

2022年10月10日（祝）、サンスクエア堺でナイス連は令和4年度堺市文化芸術フェスティバル公演を行いました。

2021年3月21日の15周年記念公演（円陣第49号参照）、2021年11月21日の堺市功績者受賞記念公演（円陣第50号参照）に続くナイス連の「昨日・今日・明日三部作」の総仕上げ公演です。

平成17（2005）年に川辺さんが立ち上げたナイス連。それからとにかく笑顔届けたい、その気持ちだけで山あり谷ありのすずめ道中が17年間続いてきました。

その歴史と新しい活動プレゼン、私たちのこれからを三部作で表現してみました。

15周年記念公演では万葉歌人に扮した川辺さんが歴史と伝統ある堺の地でナイス連を立ち上げ、樋口さんはじめ多くの仲間に恵まれた過去からのナイス連を振り返ることができました。

功績者受賞記念公演では堺市市議会議長（当時）の水ノ上先生がサプライズゲストとして登場、賞状授与をしていただきました。そして大鳥大社での連歌会立上げ企画をプレゼンさせていただきました。

そして今回ナイス連は「十年後」を考えてきたからこそ今があると歌い上げました。そして遂に謎の集団、「熟女過激団」もそのベールを脱いで演劇に登場しました。

ナイス連が昔も今も変わらずナイス連であり続け笑顔をお届けできるのも、そして感謝することの大切さを知ることができるのも実は「熟女過激団」がナイス連にいるからなのです。

15周年を迎えるまで、同じすずめ踊りの祭連からもナイス連は誤解され、非難されてきました。

川辺さんは異端者だったのです。「練習中に笑い声が聞こえるなんて不真面目だからよ」、「笑顔なんて必要ないのよ。練習が必要なのよ」

かつて異端者と呼ばれたガリレオは言ったそうです。「それでも地球は回っている」と。

私たちが今こうしてすずめ踊りの公演ができて、奉納踊りができるのは川辺さんがくじけなかったからです。「それでも笑顔は楽しい気持ちになる」そう言い続けて来たから今があるのですね。

熟女過激団はそうした異端者を象徴する存在です。ナイス連を知らない人は「何よ、あれは」とその外見だけを見て眉をひそめるでしょう。でもナイス連の仲間には熟女の声が聞こえてくるのです。

「元気を出しなさい、明るい明日がやってくるから」

真実の声に感謝・笑顔・ありがとうございます。堺すずめ踊り 仲団巢連

# 和顔愛語



不易流行

